

提 案 概 要

実施期日	7月29日(火)【午前】
部 会 名	小学校 道徳部会

1 提案テーマ 『一人ひとりの心に響く道徳の授業をめざして ～子どもの姿から学ぶ～』

2 単元(題材) 「まほうの手」(みんなのためにできること)
「羽のないかぶと虫」(生きものをかうってどうということだろう)
「あのとき すきになったよ」(友だちってなんだろう)

3 学年 第2学年

4 平成25・26年度神奈川県小学校教育課程研究会研究主題とのかかわり

① 児童が自ら課題に取り組み、他とかかわりながら自ら考え生きようとする道徳教育の推進

5 学習指導要領との関連(内容項目)

第3章 道徳 第2 内容 [第1学年及び第2学年]

- | | |
|----------------------------|-----------------------------|
| 4 主として集団や社会との関わりに関すること。 | (2) 働くことのよさを感じて、みんなのために働く。 |
| 3 主として自然や崇高なものとかかわりに関すること。 | (2) 身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する。 |
| 2 主として他の人とかかわりに関すること。 | (3) 友達と仲よくし、助け合う。 |

6 実践に向けての課題意識

「子どもたちにこうなってほしい」という教師の願いから、テーマを決め、それに沿って教材を選び、クラスの子ども全員がその価値を習得するような授業が、担任である私には、気持ちのよい授業、手応えのある授業だと今まで思っていた。しかし、ある授業の協議会で「Aくんの発言から、もっと子どもの思いに寄り添った授業ができたのではないか」と同僚の先生に指摘され、自分が子どもの声に十分に耳を傾けられていなかったことに気づいた。そうして、「子どもの心を揺さぶり、子どもの心に葛藤を引き起こすような、一人ひとりの心に響く道徳の授業をめざしたい」と考えるようになり、自分の道徳の授業について見つめ直すことにした。

7 実践の概要

「みんなのためにできること」を主題とした、「まほうの手」の資料を用いた授業を行ったところ、同僚の先生から、子どもたちの声に十分に耳を傾けられていないため、先生が教える道徳になってしまっていることを指摘された。子ども一人ひとりの声を十分に聴くために、授業展開をシンプルに行うことを心掛け「生きものをかうって？」を主題とした、「羽のないかぶと虫」の資料を用いた授業を行ったところ、子ども達の声を引き出すことには成功したが、それでもまだ子ども全員の心に葛藤を引き起こすには、十分ではなかった。

そこで、子どもたちにとってより魅力的で、心に響く教材をという思いから、「友だちってなんだろう？」を主題とした、「あのとき すきになったよ」の資料を用いた授業を行った。

8 成果と課題

(成果)

- ・子どもの姿を中心にして授業を振り返ることができるようになり、本音でぶつかってくる子、迷っている子、悩んでいる子の思いをきちんと受けとめ、一人ひとりの子どもと共に考え、悩み、感じる教師の心と身体が大切であると気付くことができた。
- ・教師主導の授業スタイルを変えたことにより、子どもたちから多様な考えを引き出すことができた。
- ・同僚の先生方と授業を見あい、学びあう校内研究体制の有効性が見られた。

(課題)

- ・子どもの考えを引き出すための、教師の細やかな配慮(魅力的な教材、座席の工夫、分かりやすく考えが深まるような発問等)について、体系的に研究していく必要がある。
- ・多様な状況の中で、子どもの姿をより丁寧に見取っていくための指導力の向上が必要である。

9 予想される協議の柱

道徳の時間の授業を行っていて、「これは、子ども一人ひとりの心に響いた」、「これは子ども一人ひとりの心に響かなかった」と教師が感じるのはどのようなときか(資料や教材、発問、子どもたちの学びあい等)